

- 1 派遣期日 令和元年10月24日(木)
- 2 研修先 学校名 習志野市立大久保東小学校
所在地 千葉県習志野市大久保2-12-1
<http://www.nkc.city.narashino.chiba.jp/daitou/>

3 研修内容

(1) 視察校における研究への取組

研究主題： 思考し表現する力を育む国語科学習 ～主体的な読みにつながる指導の工夫～
--

習志野市立大久保東小学校では、昭和53年度から国語科の研究に取り組んでおり、教材を説明的文章に絞ってより具体的で深まりのある国語科研究を目指して研究を進めている。前年度までの実践から、児童が文章に対して「思い」や「考え」、「問い」をもって読むことが主体的な学習につながると考え、各学年の段階に応じた、児童に「問い」をもたせる指導を行っている。

① 情報受容のための「問い」

児童が文章の内容を正しく把握するために必要な問いである。文章と出会い、児童の中で生まれるものもあれば、教師の発問によって気付かせるものもある。

ア. 意味の問い

分からない言葉や曖昧な言葉(意味の受け取り方が異なる言葉)についての問い。意味の問いをもち、解決していくことで文章の内容の理解が深まるのと同時に、児童の語彙力を高めることができる。また、その情報を学級で共有することができる。辞書で調べたり、文脈から読み取ったりすることで解決することができる。

イ. 情報の問い

もっとくわしく知りたいことや関連する話題でさらに知りたいことについての問いである。情報の問いについては、他の資料を用いて解決することができる。そのためには子ども達がそのことについて調べることができる環境づくりが大切である。他の資料を読むことで情報をつなげる力をつけることができ、本文の表現の仕方に納得することができる。

ウ. 論証の問い

中・高学年においては、「自分のものの見方や知識や経験」と「筆者のものの見方や考え方・述べ方」を照らし合わせて、納得のいかないところについて論証するような問いも扱う。論証の問いをもつためには、批評的な読みが必要になる。筆者の主張に対する根拠を検討し、納得して読むことができるか、そうでない場合には、どこに論証の不備があるかを考える必要がある。単に相手の主張を否定するわけではない。

エ. 筆者の問い

筆者の立場・意図・思想についての問いである。筆者への問いをもつことは、自分の考えをもつことにもつながる。筆者がどのような立場なのか、筆者の考え方についてどう思うのかなどを考えることで、自分の立場や自分の考え方について意識することができる。

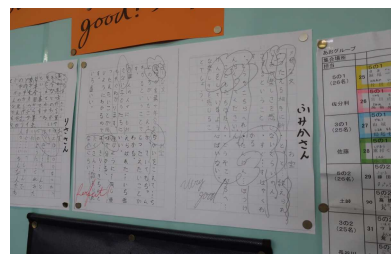
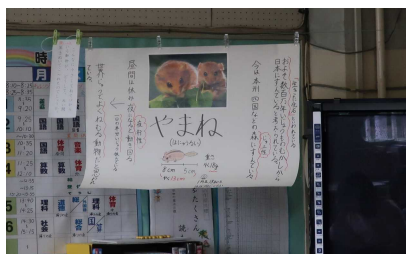
② 情報発信のための「問い」

子どもたちが情報の再構成や再生産の活動を主体的に行うために必要な「問い」である。自分の立場や考え方を整理し、改めて教材文を読み返し、筆者の意図や論理展開を意識することができる。

(2) 視察校における授業の実際

- ① 第3学年 国語科「生き物の身の守り方を考える Part II ～やまねの生命力を読み取ろう～」

教室には、前時までに読み取ったことをまとめた掲示物や、児童のノートが多く掲示されており、児童がいつでも振り返ることができる環境作りがされていた。本時は、筆者の問いである「どうして、小さくてねてばかりのやまねが長い間生きてこられたのか」の答えを読み取っていく学習が行われた。普段何気なく読み過ぎてしまいがちな修飾語や文章の語尾などを「お宝言葉」として意識させており、児童はお宝言葉を軸に自分なりの疑問をもって読み進めることができていた。疑問点を児童同士で話し合ったり、教師が具体物を提示したりしながら解決しており、内容をより深く理解できる工夫が随所で取り入れられていた。



< 具体物の提示 >

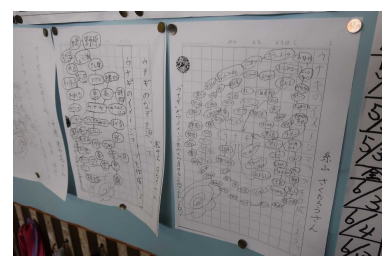
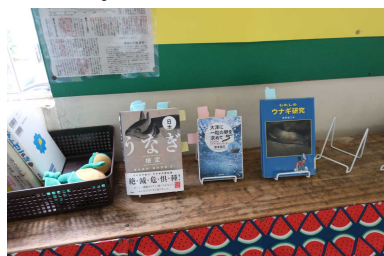
< 前時の学習のまとめ >

< good ノート >

② 第4学年 国語科「生命のロマン・うなぎのなぞ～仮説を証明する過程に生まれる問い～」

廊下には、印旛沼のうなぎを飼育していた。さらに関係する新聞記事や本などを置いたり、第一時に作成したうなぎのイメージマップを掲示したりと、児童の興味関心を高めるための様々な工夫がされていた。

本時は、地図が入っていない教材文と4枚の地図を用いて、地図がどこに入るか、根拠を明確にして考えるという学習課題が設定されていた。児童は意欲的に地図と本文を照らし合わせながら、根拠となるキーワードをもとに地図の配置を考えていた。このことにより、文中に地図がある意味や良さなどが理解しやすくなり、おおまかな内容をスムーズにとらえられると感じた。板書の際も、キーワードと地図を関連させた板書をしており、どの児童にもなぜその地図が入るのが分かりやすい板書になっていた。



< 関連図書の配置 >

< キーワードを意識した板書 >

< 第一時のイメージマップ >

4 感想

校内にはどの学年にも、学習する教材に関する本や具体物、写真など、児童の興味関心を高めるものが掲示・配置されていた。また、児童が自分の考えを自由に表現できるような掲示物などもあり、常に国語が身近にあるという環境が整えられていた。それに加え、教室内や廊下には児童のノートが掲示されていた。ノートは随時更新されており、児童が友達の考えを目にする環境も整っていた。児童が意欲的に学習するためには環境を整えることが大事だと感じた。授業では、児童の問いをもとに進められており、児童が主体的に学習に取り組むことができていた。教師の方から発問するだけでなく、児童の疑問を生かしていくことの必要性を感じた。今回学んだことを、今後の授業改善等に生かしていきたい。